

## 平成21年 第2回定例会一般質問

○議長 横尾 武志君

1番、益田議員の一般質問を許します。益田議員。

○議員 1番 益田美恵子君

おはようございます。1番、益田美恵子、一般質問をさせていただきます。

初めに、自殺対策基本法についてお尋ねいたします。

我が国の自殺者は、平成10年以降、11年連続で3万人を超え、平成20年度には3万2,249人、これは警察統計となっております。

こうした中、自殺対策に取り組んでいる市民団体が1カ月半の間に10万人を超える署名を集めるなどの運動が実り、平成18年6月15日、衆議院を全会一致で可決成立しております。国と地方公共団体が自殺発生回避のための体制を整備し、自殺未遂者や自殺者家族を支援する必要な施策を講じることが定められております。

そこでお尋ねいたします。1、本法の目的についてお尋ねいたします。2、基本理念について。3、地方公共団体の責務について。4、芦屋町の現状と取り組みについて。5、——ここで少し言葉をつけ加えさせていただきます。すみません。基本法に基づく施策の策定についてということで、「基本法について」と書いておりましたので、「基づく」を入れていただきたいと思います。

それから、大きな2点目といたしまして、緊急時における単独世帯高齢者への見守りについてお尋ねいたします。

1、単独世帯高齢者の数、これは男女別65歳以上お願いいたします。2、現在の施策と今後の課題についてお尋ねいたします。3、テレビでも放映いたしておりましたが、最近安心カード——自分の記録なるものを冷蔵庫の中に入れておくという本当に新しい試みが安心カードとして出ております。お話も聞いております。このことについて町で取り組んではいかがかと考えますが、いかがでございましょうか。

以上で1回目の質問を終わります。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。福祉課長。

○福祉課長 嵐 保徳君

それでは、益田議員の自殺対策基本法並びに緊急時における単独世帯高齢者への見守りということですが、これは私ども福祉課のほうでお答えさせていただきたいというふうに考えております。

1点目の自殺対策基本法の1から3までにつきましては、法そのものでございますので、一応これはそういう法に基づいてお答えさせていただきたいというふうに考えております。

基本法の目的につきましては、自殺対策に関し、基本理念を定め、国、地方公共団体の責務を明らかにするとともに、自殺対策の基本となる事項を定めること等により、自殺対策を総合的に推進して自殺の防止を図り、あわせて自殺者の家族に対する支援の充実を図り、もって国民が健康で生きがいを持って暮らすことのできる社会の実現に寄与することということとされております。

続きまして、基本理念につきましては4項目ございまして、1点目が、自殺が個人的な問題としてとらえられるべきものでなく、その背景にさまざまな社会的な要因があることを踏まえ、社会的な取り組みとして実施されなければならないこと。2点目、自殺が多様かつ複合的な原因及び背景を有するものであることを踏まえ、単に精神保健観点からのみならず、自殺の実態に即して実施されるようにしなければならない。3点目が、自殺の事前予防、自殺発生の危機への対応及び自殺未遂に終わった後の事後対策の各段階に応じた効果的な施策として実施されなければならないこと。4点目といたしまして、国、地方公共団体、医療機関、事業主、学校、自殺の防止に関する活動を行う民間団体、その他の関係するものの相互の密接な連携のもとに実施されなければならないというふうにされております。

続きまして、3点目の地方公共団体の責務でございますが、先ほど申し上げました4つの基本理念にのっとり、自殺対策について国と協力しつつ、当該地域の実情に応じた施策を策定し、及び実施する義務を有するということになっております。

続きまして、4点目の芦屋町の現状と取り組みということでございます。現状といたしまして残念なことではございますが、芦屋の方の自殺者の数といたしましては、過去5年間で16年度が5名、17年度1名、18年度2名、19年度4名、20年度7名ということになっております。取り組みといたしましては、基本的には未然にこういった自殺防止を防ぐために、国県と連携により——これは先ほど法の中にもございましたが、いろんな多様な背景がございますので、さまざまな防止のための相談事業を展開しております。

一例として挙げますと、人権相談、児童虐待相談、女性の人権ホットライン、ミズ・リリーフ・ホットライン、配偶者暴力相談支援センター、福岡県消費生活センター、法律相談センター、法テラスと、あらゆるそういった相談業務を駆使してそういったものに努めているところでございます。

自殺に関しましては、こういった相談時にある程度、相談者がサインを示しているケースもございますので、こういったもので現在対応しているところでございます。また、県や関係団体が主催して行いますさまざまな自殺予防の研修会への住民参加への広報や私どもの担当職員の研修

会への参加で担当者のスキルアップを図っているところでございます。

いずれにしても、自殺というのはいろんな要因がございますので、今後とも幅広いネットワーク構築が必要ではないかと考えているところでございます。

最後になりますが、自殺予防の法に基づいての対応ということでございますが、これは、ある意味横断的な要素がございます。したがって、新たな行政課題ととらえまして、今後県や庁舎内の関係各課と協議を進めてまいりたいと。これは先ほど申しましたようにネットワークの構築が重要であるということで、そういった検討を今後進めて、対応策を考えていきたいというふうに思っております。

続きまして、2点目の緊急時における単独高齢者への見守りについてでございます。

1点目の単独高齢者の男女人数は、本年6月8日現在で住民基本台帳上ではございますが、男性が232名、女性が738名の計970名でございます。ただし、これは住基上でございます。同一世帯におられて世帯分離とかされている方がございます。これは従来の高齢者保健福祉計画の中で、国勢調査の際の実態に即した人数と住基上の誤差がございます。実態では820人程度ではないか、本当の意味での単独高齢者の方は820人程度ではないかということに推計をしているところでございます。

現在の、高齢者の方の見守りはどうかということでございますが、各地域の民生委員さんによる見守り体制や、本当に独居の方でいろんな心臓病とか、そういう緊急な対応が必要な方につきましては緊急通報システムを設置してございますし、社協の事業でございます愛のネットワーク、これも社協に委託しておりますが、町の事業で食の自立支援サービスでの給食サービス配達時の安否確認等を行っております。また、地域包括支援センターとの連携で地域ケア体制の整備を今後とも図ってまいりたいというふうに考えているところでございます。

続きまして、今後の課題というところでございます。これは全国的にもそうでございますが、高齢者世帯や独居老人が増しているという状況の中、将来推計を見据えながら、高齢者保健福祉計画のさまざまな事業をいかに効果的に組み合わせて実行していくかということが今後の課題ではないかというふうに思っているところでございます。

最後に、安心カードのご提案でございます。これは本当にそういったいろんな状況の中で、その方の対応をどうしていくかということが非常に重要なことと私どもとしても認識しております。これも高齢者保健福祉計画の中で地域ケア体制を整備していくと思っておりますので、今後、地域ケア体制の整備の中で関係者と協議を行ない、ぜひとも実施できるような形でいきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 1番 益田美恵子君

今、担当課長より、るるご説明がありました。まずじゃあご説明いただいたその中の平成16年から20年度までの19名の方が、果たしていろんな施策を講じているというところに相談が1回でもあったかどうかという、その辺はわかりますか。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 嵐 保徳君

これは自殺対策ということで調べましたものでございますので、その内容がどういったものが該当したかということは、ちょっと今の時点では承知しておりませんので、そういう相談があった結果こうなったかということについては、ちょっと確認できておりません。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 1番 益田美恵子君

それは例えば相談があったとしても、それは個々の問題ですからいろんな状況が発生するだろうということは、これはもうだれもとめることはできません。ただ、現在、なぜこのような基本法ができたかと言えば、先ほども言いましたように年間3万二、三千人という、この10年間ずっと3万人を超えている。1日にかえたら90人だそうです。で、この前久留米のほうに私も研修に行かせていただいたんですが、その中で、やはりこれは放置できる問題ではない。本人だけの問題でもないし、家族だけの問題でもない。もう地域的に全員で取り組んでいかないと、これをとめることは恐らくできないだろうと言われて基本法ができ上がっているわけです。

で、るる県のほうにも、今回県のほうでは予算化をしているようでございます。で、この自殺対策の基金の中にも3年間の基金で1年間に7,000万円、それが3年間、福岡県も、各47都道府県にそれぞれ3年間7,000万円ずつ来るように、基金として積み立てられるようになっているようです。それをやはり市町村がどんな事業を展開して、それを自分たちの市町村に持って帰って生かしていくことができるかというのは、やはり行政の手腕にかかってくるだろうと。毎日1日90人ですから、おっしゃっていたのは東京マラソンがありますよね、市民マラソン。あの3万人を超える人が年間あれだけの——それこそ走っている姿を見たら物すごいですよ。あの人数が1年間でお亡くなりになっているんですというお話を聞くと、これは本当に大変なことだなと。芦屋町が1万6,000ですから、これ2倍ですよ。その人たちが1年間に亡くなっていっているという形になるわけで、もう悠長なことは言っておられないだろうと。

福岡県も全国の中では、もう一番多いぐらいなんですね、死亡者数が。で、ここで申し上げますと、全国平均が24.1%なんですけれども、福岡県では24.53%になっております。だから、今いろいろ対策としては練っておられるにしても、今までいろんな部署があったとしても、それを一括して相談窓口というのはお金がかかるとか、いろいろ言われるとまた困りますが、相談窓口一覧というのができておりました。やはりこういったものをつくることによって、どこに相談したらいいかというのが悩んでいる人にとっては大変難しい問題でありますので、こういったものをつくるという今後の気持ちというのは何か対策としてごさいませんか、よろしくお願ひします。

**○議長 横尾 武志君**

福祉課長。

**○福祉課長 嵐 保徳君**

先ほど益田議員がおっしゃいました基金というのは、今回の補正でそういう話は伺っております。実は、今度24日に担当課長会議がございますので、一応その中で詳しい話が出てくるというふうに考えております。

したがいまして、その会議に出まして、そういう状況を踏まえた中で、当然現実的にこういう実態もありますので、今後の行政課題ということで、それぞれの分野でやっておりましたものを、今後主管課をどこにするかも踏まえて、議論を進め、体制は整えていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長 横尾 武志君**

益田議員。

**○議員 1番 益田美恵子君**

それで地域自殺対策緊急強化基金のご認識ございますか。事業メニューとしては5項目上がっておりますが、それはご承知おきでしょうか。

**○議長 横尾 武志君**

福祉課長。

**○福祉課長 嵐 保徳君**

一応先ほど申し上げました24日の担当課長会議の中で示されるメニューを踏まえて、各部所がどう対応するかということがその中で示されると思いますので、その会議の内容を精査して実施していきたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長 横尾 武志君**

益田議員。

○議員 1番 益田美恵子君

お金のかかるものとかからないものといろいろあろうかと思いますが、ここで事業メニューをちょっと申し上げますと、対面型相談支援事業というのと、それから2つ目に電話相談支援事業、これは北九州でもいのちの電話ですかね、ありますよね。それにボランティアで行っている方も私も知っておりますが、相当相談があるそうです。お電話があるそうです。で、ずっと行っているんですよという話を聞きながら、そういったボランティアも募る必要もあるのではないかとここでは考えます。

それから、3点目の人材育成事業といえば、またこれはいろんな資格を持たなきゃいけないとかいう問題があれば一気にすぐできる問題ではないかと思いますが、4点目にあります普及啓発事業というのがあります。これは国民一人一人が自殺予防のために行動を起こす。気づき、つながり、見守りできるようにするための広報啓発を実施していただく。これはやはりやっていただく必要性があらうかと思えます。

それから、5点目に、強化モデル事業というのがあるんですが、これはまたいろんな体制づくりというのがありますから、モデル事業をつくるとお金がかかるとかいろいろ出てくるでしょうから、まずこの事業メニューの中から、まずはできることから取り組んでいただく。そういった行動を起こしていただくことが最も大事になるのではないかと、このように思います。

総合対策の中の大綱の中には、基本認識としては、自殺は追い込まれた末の死であるという。たくさんこの一覧表の中には10項目ぐらいの自殺に至るまでの要素が、先ほどもおっしゃってましたよね、いろいろな複合したものが重なって最終的に追い込まれていくわけですから、そこに至らないための施策というのは、なかなかそれは気づかないと思いますが、努力できることはやっぱりやっていかなきゃいけないんじゃないか。自殺は防ぐことができるんだと。制度、慣行の見直しや相談、支援体制の整備という社会的な取り組みと、うつ病等の精神疾患に対する適切な治療により予防が可能である。また自殺を考えている人はサインを発している。私もこれを見たときに、夫婦であってもサインが本当にわかるんだろうかという思いがいたします。一緒にいてもわからない。なおかつ他人がわかるはずがないかもわかりませんが、お友だちだったらお話する機会もあるかもしれないし、そういった話す場所があったら電話をするかもしれないし、そういったものは家族や同僚の気づきを自殺予防につなげていくことが課題であるということをごここではうたっておりますので、もう一度最後にお尋ねいたしますが——最後って、この項目の最後として、もう一度課長の取り組みについて、よろしく願いいたします。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 嵐 保徳君

今までの自殺対策は、基本的には精神保健で、対応しておりました。それは、うつ病の方が精神保健の中に入っております。そういった方が非常に、ハイリスクということで、自殺につきましては精神保健分野で対応しておりました。

ところが、実態的にはいろんな要素がございまして、若い方もインターネットの自殺だとか子どものいじめの自殺、それから中高年におきましては心理的、社会的、経済的な要素に伴いましての自殺者がふえておりますし、私どもが担当しております高齢者につきましても、健康問題とか介護の問題とか、こういったものが引きがねとなって確かに自殺の方がふえているというような状況でございます。今までそれぞれの分野でやっておりました。しかし、基本法ができて、今度、基金が創設されるということでございますので、先ほど申し上げましたとおりに、その課長会議の中で示されたものをきちんと精査して、関係各課で協議をはかり、この問題に推進していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 1番 益田美恵子君

この点につきましてはよろしく願いいたします。県においてもしっかり現在取り組んでいるようでございますので、市町村にもお金をいただける方向性であるようですので、ぜひ対策を練っていただいて、いただけるものはいただいて対策を講じていただきたいと、このように思います。

それでは次に、緊急時における問題でございますが、高齢者の方の不安というのは、「一人でいると、益田さん、とっても不安なんです」って。もう自分がいつ倒れるかわからないと。倒れてもどうしていいかわからないというご相談をよく受けます。そのときに「通報システムどうですか」と民生委員さんも言っていたくようですが、これはやはり介護保険の関係がありまして、一人だからだれでもつけられるという問題ではないんです。そこが私は本来だったらつけてほしいなという希望を持っております。

なぜ私が今回これを取り上げたかと申しますと、3月でしたか、あるお店が、いたずら電話によって火災だという通報が消防署に行っているわけです。もう消防署はびっくりして、それこそ、5台ぐらいだと思っていたら、最終的に7台ぐらい出動して、来てみたら全くぼやでも何でもなくてご本人は休んでおられたんです。ところが、そこが火事だというものだから、あんまりざわざわするから、もうお酒飲んで寝てあったんだけど、飛び起きて出てみたら、「奥さんのところですよ」と言われて、本人がもうびっくりしてあるわけです。「なぜ自分がこんな目に遭わなき

やいけないか」ということをおっしゃっていました。おひとり住まいの方で。で、私も近いから飛んでいきまして、一人に置いておけないんです。お酒も飲んであった関係上、やっぱり眠れないと。もうとにかく「おってください」と言われるから、主人と、それから消防の方が、裏の方が、若い方がおられたから、3人でそこにずっと、またお酒をだめと言っても飲まれるわけです。本人は心臓が悪いらしいんですが。それで、お酒を飲まれている間に座ってあったところからどっと落ちてしまわれた、いすから。もう一瞬ですから、もうとめるなんていうことはもちろんできなかつたんですが、それで脳震盪を起こされて、もうびっくりして顔をたたいたり、「大丈夫ですか」と3人で言いながらやっていると、もうとにかく救急車、もう救急車慌てるから何番やったかいねという感じでかけたんですが、「その方はどこの病院にかかってありますか」とか、「何のお薬を飲んでいますか」とか言われても他人ですから全くわからないんです。このときに、これは何とかやっぱりおひとり住まいの方の対策はしなきゃいけないなと思っていたときにテレビでこれが出てきたんです、安心カードというのが。

これは、片栗粉を入れる——パスタでは長過ぎるのでこれが一番いいそうです。片栗粉を入れる、これにご本人の——ご希望ですよ、希望される方においては、全部これは、ただちょっとこれは人が書いてくださっているんですが、救急車から警察、自分の氏名、生年月日、住所、保険証番号とか、保険証の種類、かかりつけ病院、それから今飲んでいる薬、血液型とかアレルギーがあるかないかという自分のデータを全部書いていただいているんです。その方はテレビ見て、翌日にすぐ実践してこれを100均で買って来て、もうお友達にこれしとったらいよいよと行って、単独の世帯の方にこれをお勧めされている。で、消防署の方にお聞きしたら、とても助かるそうです。わかりませんと、おひとりの方の何をどうなさっていたか、連絡先もわからないし。

で、そのときも連絡先がわからないんですよ。息子さんやら娘さんは5人いらっしゃるのわかっているんですが。それで、ちょっと瞬間に元に戻られたときに、「とにかく連絡先を教えてください」と言ったら、大きく黒板に娘さんたちの電話番号が書いてありました。そこにかけて、水巻におられる方を呼んだんですけども、もう本当に心臓が悪いということは私もわかりませんし、お酒飲んでいるわけですから、娘さんから相当怒られていましたけどね。そういったときに、本当にこれはいいことだなと。

私でも血圧の薬を飲んでます。主人は恐らく知らないと思います。何か薬を飲んでるなというだけで薬の名前は知らないと思います。そのときに私もこれは絶対やっておきたいなと思っております。このハートマークはなぜかといったら、これは北九州はカエルのマークがついているそうです。これを冷蔵庫の表にカエルの同じマークを張っておくんです。そしたら、「この家庭はこの安心カードが入っているんだな」ということで救急隊の人があけることができる。冷蔵庫だったら目につくところにあるわけですから、必ずこれにも張っておくし、表にも張っておけ



ば、ここはあるないというのがわかるようにしているんだそうです。だから、これはもう絶対にちょっとお勧めでございます。もう一度ちょっと課長さん、答弁をお願いしたいんですが。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 嵐 保徳君

そういう高齢者の方の緊急の場合のいろんな連絡先とかいうことにつきましては、私どもいろんなシステムの中でデータがあり、先ほどの緊急システム、食の自立支援、また、要援護とか、そういったデータは確かに私どもとしてはとらせていただいております。ただ、かかっている病院とか薬とかいうものはございません。で、先ほど申しましたとおりに、今後ともそういった高齢者独居世帯、高齢者世帯がふえる中で、一番重要なのは地域ケア体制の確立であると考えておりますのが、高齢者保健福祉計画の中ではそういった具体的なものは出ておりませんので、きょうご提案いただきましたし、私のほうもインターネットで先進地の情報をとっておりますので、今後、検討をいたしまして、そういったものを実現できるように図っていきたいというふうには考えております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

益田議員。

○議員 1番 益田美恵子君

民生委員さんにしても地区の区長さんあたりにしても常時いらっしゃるわけではありません、緊急時においては。やはりこういったものが一番本人にとって、希望ですから、本人が希望されない方は当然やらなくていいわけですから、やはり希望者を募って、これが100均ですから100円なんです。そしたら970名にしても9万7,000円です。町で負担をしたとしてもですね。希望者の方に配ったとしても、これだけの金額しかかからないわけです。それで本人が安心が求められるのであれば、これはやる、私は価値があるんじゃないかなと、このように思いますが、最後にこの点について町長、一言お願いいたします。

○議長 横尾 武志君

町長。

○町長 波多野茂丸君

静かに拝聴させていただいておりました。本当に貴重なご意見、ご提案をいただいたなと私自身思っているわけでございます。芦屋町もご多分に漏れず高齢化率がだんだん高くなっております。現在23%、もうすぐ4人に1人は高齢者になろうとするわけでございます。ご近所見回しても、いわゆる65歳以上の高齢者の方の夫婦、それから高齢者単独の世帯というのがふえてき

ておるのが現状でございます。そうした中、高齢者の方が安心して地域や生涯学習等の活動に参加できるように、そしてまた芦屋町に住んでよかったと、安心して住んでいただけるようにすることが行政の指名であろうかと思えます。

今、益田議員ご提案ございましたこの件につきましては、社会福祉協議会ともよく協議いたしまして、ぜひとも実行に移していきたいと考えております。

以上でございます。

**○議長 横尾 武志君**

益田議員。

**○議員 1番 益田美恵子君**

大変ありがとうございます。前向きにご検討いただくことを期待しております。

また、自殺対策におきましては、24日の課長会でしっかりご議論いただきまして、町民の生命を守るという立場の基本においていただきまして議論していただきたいと、このように思います。

以上で終わります。ありがとうございました。

**○議長 横尾 武志君**

以上で、益田議員の一般質問は終わりました。